

第13分科会 「おはなしを届ける想い」～塩尻市読書活動グループ連絡会の活動とその歩み～

発表者 ねっこぼっこ（塩尻市読書活動グループ連絡会）

塩尻市民読書の会（塩尻市読書活動グループ連絡会）

司会者 大澤青加（塩尻市立図書館）

記録者 小森かおる（塩尻市読書活動グループ連絡会）

新井 桂（塩尻市読書活動グループ連絡会）

城井美保（塩尻市読書活動グループ連絡会）

1 発表の概要

塩尻市では「塩尻市読書活動グループ連絡会」が平成20年度から組織され、ボランティアグループごとの連携や団体の活動に係る情報交換や研修などの活動をしている。今回は、塩尻市の地域で活動している読書活動2団体の活動の概要・活動状況を説明し、実践発表を行った。参加者の活動する地域の活動の状況を相互に理解し、県内の読書活動に関わる参加者による情報交換により、参加者の今後の活動に役立てられる機会とするもの。

(1) グループの概要説明と実践発表

①グループ「ねっこぼっこ」の発表：○パネルシアター「どんなものができるかな」「かきの後ろにいるのは？」○手遊び「どんぐりころちゃん」○パネルシアター「八ヶ岳と富士山」、クリスマスのおはなし

②市民読書の会の発表：○絵本「スーホの白い馬」（プロジェクターに投影して）○うた「うさぎとかめVS浦島太郎」○読み語り「山ねこおことわり」○紙芝居「おおかみのまゆげ」

2 グループ討議

ABCDEの5グループに分かれて、各自の自己紹介、参加者の活動の状況を説明し、グループごとに今後の読書活動推進の方法、課題について話し合い実施

(1) 参加者の概要について

○朗読ボランティアグループ、音訳ボランティア、小学校で読書ボランティア、学校専属のボランティア、本の宅配ボランティア(高齢者宅で本を読み聞かせる活動)、図書館協議会、活動の場所は図書館、保育園、学校、福祉施設など。

(2) 他市町村の状況の情報交換について

○塩尻市では「塩尻市読書活動グループ連絡会」があり、団体間での情報共有や研修をおこなっている。読書活動に関わる様々な情報が受け取ることができる。

○読み聞かせ活動の方策や課題について

①読み聞かせ活動にあたって選書の基準や選書について

季節感やブックリストを参考にすること。グループないでの情報交換を密にして、本を紹介しあうなども有効ではないか。また準備する内容も何冊か用意し、お話会の状況や人の集まり具合に対応できるようにすることも必要ではないか。

②以前に比べて活動が少なくなっており、所属する人の人数も少なくなっており、お互いの意見をいう機会も少なくなっている。若い人が入ってきてほしい。仕事を持っており、グループの活動を合わせるのが蒸すかしい。図書館にどうやって関わってもらえることができるか。横のつながりがほしい。学校に関わるボランティアはない。お金はないが活動は手探りである。

3 まとめ

今回の分科会では、様々な形態、場所でグループや個人で活動する方の情報を共有することができた。団体の活動は、読書活動の推進だけでなく、自分のやりがい、活躍できる場として、「読書活動は広くて深い世界、人との交流も幅が広がり、本を楽しむ充実感を味わえる」といった感想が寄せられた。今後はボランティアグループでの選書や活動の技術の向上できる研修や情報交換できる機会の必要性があると思われる。他市町村の行われている良い活動を取り入れながら、今後の活動に深めていく機会となった。